オープンな大学院を指向して

龍谷大学経営学部研究科 研究科長
守屋　晴雄

私（守屋）は、2012 年 4 月から弊学の経営学研究科長を拝命しています。

平素は、経営学研究科に対してはもとより、その付置機関の京都産業学センターに対し、ご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

この場をお借りして、経営学研究科の紹介を中心に述べさせていただきます。

本研究科の教育理念・目的は、「建学の精神をふまえつつ、経営学の高度で専門的な知識を会得するための研究の推進及び応用能力の涵養を通じて、複雑な機能と構造をそなえた現代社会の要請にこたえる専門職業人及び研究者を育成すること」にあります。

本研究科の母体ともいうべき弊学の経営学部は、1966 年度に経済学部から分離する形で創立されました。経営学研究科は 1982 年度に経営学専攻の修士課程の開設によって創立されました。カリキュラムなどの重要な意思決定をする研究科委員会は、学部の専門科目担当の教授職の教員によって担われました。その後、1985 年度に経営学専攻の博士課程が開設されました。

さらに、大学院、とりわけ修士課程（博士前期課程ともいう）に対する社会のニーズの多様化や文部省の大学院行政の柔軟化（大綱化）を背景にして、研究科内にビジネスコースを設けることによって、社会人の受け入れを開始しました。この社会人の受け入れは全国的にもかなり早期に属します。社会人の場合、平日の昼間での受講は困難ですので、平日の夜間や土曜などに授業科目を多く設置しました。それらの科目の履修によって修士課程の修了を可能としました。

この冊子（『京都産業学研究』11 号）を機関誌とする京都産業学センターが創立されたのが 2002 年度です。『京都産業学研究』の刊行は、京都産業学センターの事業の 1 つでして、他にも多くの事業を展開しています。2012 年度に行った事業は本冊子に記載されています。

2006 年度には、日本企業の中国進出を教育機関として援助すべく日中連

携ビジネスプログラムが開設されました。ここに「連携」とありますが、このプログラムにおいて桃山学院大学経営学研究科との連携も行われています。

このように社会のニーズに合わせて（あるいは先取りして）経営学研究科の内実がカリキュラムを中心にさらに充実してきました。

もちろん在学中の真摯な学修が最も肝心ですが、修了後も学習や教員との人的つながりを継続したい人のために、修士課程修了者の場合は特別専攻生制度、博士課程（博士後期課程ともいう）退学者の場合は研究生制度が設けられています。また、教員を交えた修了生や在学生のオープンな知的交流の場として生産システムサロンが年２回開催されています。このサロンは、生産システム工学を担当されていた人見勝人先生のお骨折りによって立ち上がったものでして、2012 年 11 月 3 日開催のものが 36 回目に当たります。

以上、本研究科について簡単に紹介させていただきましたが、本研究科は、上記の教育理念・目的の下に、一貫して社会に貢献するオープンな大学院を指向してまいりました。この冊子もこの指向が具現したものの１つです。

皆様の職場もおそらく大なり小なり問題を抱えておられることと拝察します。本研究科もその例外では決してありません。社会のニーズの動向を正確に把握するとともに、本研究科の資源（教員など）を柔軟に活用していくという真摯な模索をこれからも続けていきたいと思います。